

# 明日の日本に向かって

保岡 興治 衆議院議員



今日のご盛会、誠にありがとうございます。この年に毎年ご案内をいただき、参加しているのですが、ついこの間お話ししたような気がしまして、あっという間に1年がたつものだとしみじみ思いました。

すでに、議員の先生方もお話になられたと思いますが、とにかく物づくりで豊かになった日本です。それも全産業が立ち上がっており、百九十以上ある国の中で、日米2つの国でGDPが世界の4割を占め、敗戦国とかつての戦勝国と2つの国で世界規模の経済を担う状態となっております。それはもう焼け野原から始まったのですから一瀉千里です。

私が高校1年生のとき、昭和30年、税収がちょうど1兆円でした。予算もだいたい同規模でした。小泉さんや山崎さん、加藤紘一さん、そういう方々と昭和47年に初めて国会に出ました。そのときにちょうど税収が10兆円、2けたをまたいで予算も同規模でした。それがバブルの絶頂期の平成2年、税収が61兆円を超えました。1兆円から60兆円まですさまじい勢いで伸びた歴史が今の経済規模を築いているようなものです。

それが何と今年の税収は、41兆8,000億円。20兆円も落ち、税収が3分の1へこんだ。ワーツと増える時代とへこんだ時代。さあ、予算は3割を削っているかというところではない。80兆円です。サラリーマンが40万円の収入で80万円の生活をしているという、気が狂ったような話だと言われるような財政構造。そして、競争力をもって日本を豊かにした一瀉千里に引張った国際競争力がある分野は、今は1割に過ぎない。

オートバイや4輪車が、中国で本当に寸分狂わないものができる。誰にでもまねができる技術が出来上がってきました。労働力は20分の1、30分の1の安さです。これではこの1割の分野で頑張っている日本もいずれは追いつかれてしまう。今はまだ、パーッと伸びていたときの財産があるからいいですけども、財政を見ても、今の政治の状況を見ても、物づくりの優位性が奪われかねない状況を見ても、子や孫の時代があるかという状況で、これが我々政治家が考えなければならないポイントです。その中で、まさに先程、先生方がそれぞれ話されたような知的財産の重要性がそこにあるのだらうと思います。特許庁のOBと現役の方でつくるこの懇親会は、明日の日本の素晴らしい夢を乗せて頑張ってくださいと集团であります。

いま、知財高裁を創設することを提案しております。やはりインテリジェント機能を持った素晴らしい独立のものが必要です。地裁では、東京以外にまだ大阪にも専属化したのが残っております。無効審判と侵害訴訟との関係をどうするかという問題もあります。あっという間に立派な体制をつくっていかなければなりません。世界から見学に来るような素晴らしい体制をつくることに全力を尽くしたいと思います。

法律の分野ですが、基本六法に優秀な人が集まってそれが大学の法学部でもとても大事にされてきました。知的財産関係の法律はどうだったかということを考えますと、こんにちこれはロースクールの重要なテーマになってきましたし、また、大学でも非常に重要な法律関係の重要なテーマになってきていると思います。

時代は大きく変わります。明日の日本を目指して、子や孫の時代のためにやるべきことをきちっとやる。このことが私は知的財産関係者の本当の夢だと思うし、使命だと思います。

皆様、生きがいと使命感をもちベストを尽くせるように、太田長官はじめ諸先輩が一生懸命に頑張ってくださいました。また、元長官の荒井寿光さんが、内閣の知的財産戦略推進事務局長として、すさまじいばかりのリーダーシップを発揮してくださっていることも大変心強いことだと思います。みんなで力を合わせて頑張りましょう。今日はありがとうございました。

## PROFILE

保岡 興治（やすおか・おきはる）

昭和14年5月11日生まれ 衆議院議員（自由民主党）

< 主な現職 >

衆議院憲法調査会幹事

自由民主党司法制度調査会会長

自由民主党国家戦略本部事務総長

自由民主党緊急金融システム安定化対策本部部長代理

知的財産制度に関する議員連盟会長代理

弁護士